

ステップファミリーにおける継／養子の非同居実親
—継／養親の非同居実親に対する意識—

久保原 大 (東京都立大学)

1. はじめに

ステップファミリーにおける子どもの面会交流については現在議論が進んでいるが、そもそも離婚時に面会交流の取り決めをしていない母子世帯が多い。そしてその理由として「相手と関わり合いたくない」が26.4%、「相手が面会交流を希望しない」が12.0%であり、「取り決めをしなくても交流できる」は16.4%にとどまっている(厚生労働省 2021)。また、子どもが面会交流を望んでいたとしても、同居親への配慮や関係性から本心を語ることができない状況も考えられる。さらに、同居実親の再婚によってステップファミリーが形成されると、子どもと非同居実親との関係はさらに複雑なものとなることが推察される。現在、ステップファミリーにおける継／養親と継／養子との関係についてはいくつかの議論がみられるようになったが、継／養親の継／養子の非同居実親に対する意識についての研究はあまりみられない。この継／養親の意識は、継／養子の面会交流だけでなく、継／養親子の関係形成にも影響するのではないか。非同居実親の存在が虐待の要因の一つとなったケースもある(久保原 2021)。そこで本報告では、ステップファミリーの形成過程において、継／養親が継／養子の非同居実親にどのような意識を持っているかを検討したい。

2. データと方法

本報告では、2023年11月に民間調査機関により行ったインターネット調査の結果をもとに分析を行う。対象者は400名(男性278名:女性122名)。年齢27歳から59歳。調査結果の属性クロス集計と設問間クロス集計および回答理由による分析から、継／養親が継／養子の非同居実親について何か考えたことがあるかどうか、またその理由から、継／養親の非同居実親に対する意識を検討する。

3. 結果

「あなたはパートナーの子どもの同居していない実親について、何か考えたことはありますか」という設問に対して「ある」と回答した男性は24.5%、女性は28.7%であり、多くの人が継／養子の非同居実親について考えたことがないことがわかった。「ある」という回答の理由には、継／養子や非同居実親に対する気遣いがみられるものもあるが、否定的な回答もいくつかみられた。「ない」という回答の理由には、気にしていないというものも多いが、考える必要がないというようなものもあり、継／養子の視点が考慮されていない可能性が示唆された。

文献

厚生労働省、2021、「令和3年度 全国ひとり親世帯等調査結果の概要」法務省ホームページ、(2025年5月17日取得、<https://www.moj.go.jp/content/001388754.pdf>)。

久保原大、2021、『血のつながりと家族のかたち—わたしたちが血縁を意識するとき—』晃洋書房。

付記

本報告は、JSPS 科研費 23K12601「ステップファミリーにおける継／養親の血縁意識」(研究代表者:久保原大)の研究成果の一部である。

(キーワード: ステップファミリー、非同居実親、子どもの視点)